

追試をするということの価値（Ⅱ）

——国語科「うとてとこ」（詩）の授業に即して——

岡 利 道

本稿は岡（2020）の続編となるものである。早速、「(2)結論」における「表2」の既発表分（再掲）に続けて、その時間の終了時までのものを付け加え、完成形としたい。それが本稿の究極的なゴールである。同時に、前稿中の「4. 考察・結論—現代の教育環境を考慮に入れて—」の完結となる。従って、本稿は表形式のものが多くを占め、論考としてはいびつな形となることをおことわり申し上げておきたい。

表2 追試実践研究のための学習指導案・本時展開例

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
導入	0		開始		
	①はじめに「う」だけ書き、読ませた後で、次を一字ずつ書き足して、題名全体を読ませる	板書① うとてとこ	指示① 今日学習する詩の題名を読んでみよう 自分の思うままに読んでみる		①どのように読むか戸惑いながらも、子どもなりに読んでいく
	②「わからない」という児童の反応を受け、「今はそれでいい、これからわかっていくのだ」と話す		発問① これは何のことだろうか	①ここでは正解までは求めず、反応を見る	②ほぼ全員が「わかりません」と答える
	③2回ほど一斉読みをさせる	板書② うとうとうとう	【正解】鵜と手と子を描いた詩の題名（児童なりの予想でよい） 何か手がかりがないかと探す		
3	④「わからない」という児童の反応を受け、「今はそれでいい」と認める言葉をかける。「う」は何々だという意見が出たら取り上げる。鵜だという児童が出たら、「凄いぞ」という言葉をかける		指示② 詩の一行目を読んでみよう 自分なりに読んでみる 発問② これは何のことだろうか 【正解】鵜と鵜と鵜と鵜のことだ（児童なりの予想でよい） 何かを「と」でつないでいる	②ここでも正解までは求めず、様子を見る	③やや慣れた様子で読む ④「わかりません」だけでなく、自分なりの予想を述べる児童も出てくる

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
展開	<p>⑤「う」と書いて、一旦児童の方を見る。そして、後を続けて書く。その都度、児童の反応をよく見る</p> <p>⑥教室全体をよく見渡す</p>	<p>板書③ うがよんわ</p>	<p>指示③ 詩の二行目を読んでみよう</p> <p>指示された行を読む</p> <p>発問③ あつ、わかったという人</p> <p>【正解】(意志表示すればよい)</p> <p>徐々に気づいていく</p> <p>発問④ 何という鳥ですか</p> <p>【正解】鶺鴒</p>	<p>③児童の反応を捉える意図である</p>	<p>⑤「わかった」とつぶやく児童が現れる</p> <p>⑥「鶺鴒という鳥」とつぶやく児童が現れる</p>
	<p>6 ⑦「わからない」と言う児童、挙手しない児童を見据え、よく考えていくように促す</p> <p>⑧全ての児童がう(鶺鴒)だとわかったことを大いに誉める。「わからない」と言っていた人が「わかった」に変わるのが勉強なのだと、学習の意味づけをしている</p> <p>⑨小さい声だと、もう一度読ませる</p>	<p>板書④ うとうとうとうと</p>	<p>I</p> <p>YES</p> <p>診断</p> <p>板書全体を見返す</p> <p>どの言葉が鳥の名前か考える</p> <p>NO</p> <p>④「よんこ」で考えてみよう。 数字の4に個をくつつけるような数え方をするものにおはじきがあるね。詩の「よんわ」のように、数字の4に「わ(羽)」をくつつけるような数え方をするものは【正解】鳥</p> <p>指示④ ここまでをを読んでみよう</p> <p>指示⑤ 詩の三行目を読んでみよう</p> <p>発問⑤ 何のことだろうか</p>	<p>⑤またおはじきで考えてみよう ④と⑧と⑨と⑨がよんここの詩ではどうなるかな 【正解】う(鶺鴒) ↑ ④「よんこ」で考えてみよう。 数字の4に個をくつつけるような数え方をするものにおはじきがあるね。詩の「よんわ」のように、数字の4に「わ(羽)」をくつつけるような数え方をするものは【正解】鳥</p> <p>⑧一〜二行目の構成や表現に目を向ける</p> <p>⑥(またわからなくなったという児童に)またわかるぞ。次の一行を読んでごらん</p>	<p>⑦迷っている児童も、だんだんう(鶺鴒)という名前の鳥ではないかと考え出す</p> <p>⑨少し気がゆるみ、声が小さくなる</p>

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
9	⑩「うとうとうとうと」を読ませる		指示された行を読む 発問⑤(再) 何のことだろうか 【正解】うとうとしている→居眠り		⑩気づいた児童を指名
	⑪「どうだ面白いだろう」「わからなかったものがわかる」と話す	板書⑤ いねむりだ	指示⑥ 最初から読んでみよう		⑪「わかった。居眠りか」とつぶやく児童が現れる
	⑫最初から読んでみさせる(一斉)		一斉読みをする 指示⑦ 最初から読んでみよう		
	⑬同上(個別)		指示⑧ 読む時に、これが自分で最高の読み方だというふうに考えて読もう 指示された行を読む(一人目) 発問⑥ 今の読み方は○、△、×のうちのどれだろうか 【正解】なし(○△×の一つを選ぶ)		⑬指名された順に読む
	⑭同上(個別)		指示された行を読む(二人目) 発問⑥(再) 今の読み方は○、△、×のうちのどれだろうか 【正解】同上		⑭特に反応なし
	⑮同上(個別)		指示された行を読む(三人目) 【正解】同上 説明① つかえずに読むのはいいが、それだけでは上手だと言えないことを伝える		⑮同上

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
12	<p>⑯児童に、詩の第一連の構造に目を向けさせようとする</p>		<p>発問⑦ この詩の仕組みに合わせて読むためには、どうやって読んだらいいのだろうか</p> <p>【正解】1・2行目と3・4行目とは読み方を変える</p> <p>II</p> <p>YES</p> <p>診断</p> <p>NO</p> <p>説明② うとうとうとう うがよんわ } A うとうとうとうと } B いねむりだ AとBに分けて考える</p> <p>Aは鵜が四羽いること、Bはその鵜たちがうとうとと居眠りしているんだ</p> <p>1行目の「うとうとうとう」と3行目の「うとうとうとう」とは違うんだ</p>	<p>⑦1行目を2行目がまとめて鵜が四羽と言っている、3行目の様子から4行目がまとめて鵜が居眠りをしているのだから、1行目と3行目は、どう読み方を変えたらいいだろうか</p> <p>【正解】 「鵜と鵜と鵜と鵜」 「うとうと、うとうと」になるから、変えるといい</p>	
18	<p>⑰詩の構造や表現を丁寧にたどらせよう、どのように読むべきかという、音声化をしながらの検討をさせ、より確実なものとしようとする</p> <p>⑱アクセントや抑揚の面からも考えていくように仕向ける</p> <p>⑲時間の許す限り、多くの児童に読ませる。変化のつけ方を多様に経験していかせ、新たな発見をさせようとしている</p>	<p>板書⑥ てとてとてとて</p>	<p>発問⑧ 鵜がそこにいるような読み方と、鵜が居眠りをしているような読み方と、どう変えたらいいか</p> <p>(間の取り方の面から) テンを打つようなつもりで読むようにしたらよい</p> <p>発問⑨ どのようにテンを打つか</p> <p>・うと、うと、うと、う、 ・うとうと、うとうと、 のうに</p> <p>発問⑩ (間の取り方以外で) 読み方を変えたとしたら、他にないか</p> <p>・うとうとうとう→鳥がいるから大きく ・うとうとうとうと→居眠りだから小さく 他</p> <p>何名かが読んでみて、この詩の仕組みに合った読み方になっているか確かめる</p> <p>指示⑨ (第二連に入り) この行を読んでみよう</p> <p>一斉読みをする</p>	<p>⑱これまでの気づきをまとめるようにして考える</p> <p>⑳平坦な読み方だけをしてきた児童はなかなか変化をつけることはできない</p> <p>㉑詩の内容ががらりと変わったことに気づく</p>	

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
33	<p>㉑「このことだね」と一人の児童の手に触れる。次にかけて、テンポよく進める</p>	<p>板書⑦ てがよんほん</p> <p>板書⑧ てとてとてと</p> <p>板書⑨ らっぱふく</p>	<p>発問⑪ 何のことだろうか</p> <p>【正解】手のこと</p> <p>やはり手のことで、四本と続くので、間違いないと思う</p> <p>発問⑫ 何のことだかわからない人</p> <p>説明③ わからない方が面白いんだよ。次の一行ですぐわかる</p> <p>説明④ これは、らっぱの音です。子どものらっぱの音です</p> <p>指示⑩(第二連を指して) 最初から読んでみよう</p> <p>一斉読みをする</p> <p>説明⑤ てとてとてとて } A てがよんほん } てとてとてとて } B らっぱふく } この二連も、一連と同じように、AとBに分ける</p> <p>発問⑬ 一連であてはまった読み方が、二連でもあてはまるだろうか</p> <p>説明⑥ うとうとうとう } はっきり、 うがよんわ } ふつう うとうとうとうと } なめらかに、 いねむりだ } ゆっくり ↓ 二連でもそのように読むとよいか考える</p> <p>指示⑪ 同じように読むとする人は、ノートに○を書き、そう考えない人は×を書く。それぞれその後に理由を書く</p> <p>指示⑫ (上記のことはそのまま大事にしておくように伝えた後で) 一連・二連と書いたが、この時はこれで終わると思うか、続くと思うか。終わると思う人はノートに「お」を、続くと思う人は「つ」を書く</p> <p>発問⑭ 書かない人</p>	<p>⑨きょんとんとしている児童もいるが、「ある、ある」という児童もいる</p>	<p>⑬皆が挙手する</p> <p>⑭おもちゃのらっぱが「てとてとてとてと」と音を出すことを想像する</p>
39	<p>㉒時の構成としての連について教える</p> <p>㉒考えを持ち、ノート書いて可視化すること。理由は一つに絞る、重点化すること。それらを大事にしていこう伝える</p>			<p>②それぞれがノートに考えを書いていく</p> <p>②皆が書いていく</p>	

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
42	㊸挙手をさせる		発問⑤ 「お」とするか、「つ」とするか		㊸殆どが「つ」と表明
	㊸あえて考えざるを得ない立場にさせ、よい意味での緊張感を持たせる		指示⑥ 「つ」と書いて、理由が言えないという人は立つて		
	㊸一人ずつ指名。まず一人目		説明⑦ 立った児童に対して、「これから、先生があなたたちをいじめるから。」とゆさぶりをかける	㊸「えー」という声	
	㊸続けて二人目を指名。同様に三人目も		発問⑥ なぜ「つ」と書いた		
45	㊸座っている児童に向けて、間接的に発言を促している		何となく…		
	㊸登み掛けるように問い、児童の思考を促す		「てとてと」でできたから、違う言葉でもできるのでは…		
			一連、二連とあったから、三連、四連、五連とあると思う		
			こちらの方に「うとうとう」って何だか続くような…		
48	㊸厳しく児童を追いつ込んだ後で、児童の頑張りを、独特のユーモアをもって称える		指示⑧ なぜか続くような感じがする。それではダメなんだよな。座っている人は言いたくてむずむずしてる		㊸同じでーす。」「三連ある。」という声
			一連は始めに「う」とあって、二連は始めに「て」とあるから、三連は「こ」で始まる		㊸笑いが起きる
			発問⑦ なぜそうだ		
			(黒板の題を指しながら)「うとてとこ」だから		㊸「できた。」という声も
			説明⑧ それに気がつかなければダメなのだ、いじめはこの辺にしよう、と話して児童がいじめに負けなかったことを暗に伝える		
			指示⑨ 第三連は自分一人でするだろう。作ってみよう		
			男児一人が、続いて女児一人が発表するも、内容は記録を読む限り不明		
			指示⑩ どちらがよいと思うか、ノートに書くように促す		

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
51	⑩その後は必ずなぜかと聞くことを予告しておく	III	<div>指示⑦ 挙手で意思表示させる</div> <div>発問⑧ それはなぜか</div> <div>(男児のは)「こが四つ」と言ったが、何が四つかわからない。(女児のは)子どもが四人だとわかったから</div> <div>説明⑨ 「子が四つ」というようには数えないということを確認する</div>		㊸多数が女児のものを支持
	⑪それぞれを認める	<div>板書⑩ ことごとことこ こがよにん ことごとことこ (原実践にはなし)</div>	<div>指示⑧ 第三連の三行分は次のようになるだろう。 ことごとことこ こがよにん ことごとことこ その次の、最後のところだけ言ってもらおう</div> <div>あそんでいる</div> <div>ころがろう</div> <div>げたのおと</div> <div>あるいている</div> <div>おとがする</div> <div>こまとこまがあたるおと</div> <div>指示⑨ 「(こまと…)」のことで、これがいいと思う人はノットに○を書き、そう考えない人は×を書く</div> <div>発問⑨ ×を書いた人はなぜそうか</div> <div>一連・二連と比べながら、児童なりに説明</div>	⑪連の構成やリズムを考慮できにくい児童もいる(先の「げたのおと」の影響があるかもしれない) ⑫考えは持っているものの、表現し切ることが難しい	㊹女児は次のように作ったものと予想されることごとことこがよにん ㊺笑いが起きる ㊻児童なりによく作ることができている

時間	教授活動の分析		目標の分析	学習活動の分析	
	教師の行動分析	教授資料提示	フローチャート	不適応行動と対策	児童の行動分析
	IV ¹⁾ ㊸児童の予想を受けて、板書(Ⅱ)を少しずつしながら、確かめていく ㊸本時の学習のまとめとして、各自が詩全体を黙読して味わうようにさせる	板書Ⅱ とをたたく (原実践にはなし)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">説明Ⅹ 「こがよにん」というのは、四人でこまを回しているということがまだ入っていない(後略)</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">説明Ⅺ 時間が延びたので、ここで終わる。作者は「とをたたく」とした。では、詩全体を通して、心の中で読もう</div>		
2) 53	㊸追究する過程の大切さに触れて授業を終える		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">発問Ⅻ 今日の詩の学習では、わからないところがだんだんわかってきただろう</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px; text-align: center;">挨拶をする</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">終了</div>		㊸「うん」という声 ㊸お礼を言う

〔付 記〕

前稿の最終部分で記したように、別案（最初から詩の全体を提示して指導する方法）を示すことも計画していたが、全体像を示すにはかなりのページ数を要することから、その研究成果の公表に関しては他日を期することとした。

〔注〕

- 1) 詩の第三連の最終行の指導は、先行研究（実践）でも問題とされている。管見によれば、それに関して最も組織的な検討がなされたものは、「現代教育科学」誌の1986年・8月号における小特集「野口芳宏氏の「うとてとこ」を追試して」である。例えば、西尾実践では（西川実践については割愛させていただく）、やはり児童（小学校二年生）に第三連の最終行の予想をさせているが、出されたものは「くつのおと、ことりがあるいた、わらってる、ひとがおきる、こうさんだ、ならしてみた、あしのおと、ひとがあるく、なべがわいている、あしぶみだ、ほうちょうできったおと」といったものである。西尾氏は指導の失敗であったとするが、野口氏は後の感想で、そういう時こそ慌てず、むしろ「しめた!」と思って、じっくり構えるべきだとの姿勢を示されている。具体的には、次の言葉が示唆に富んでいる。「〔発問〕と〔指示〕だけでは、子どもを変えることはできない。発問をした後で、それらの反応に対して「追究」や「補説」を加えたり、また、指示の後で「承認」したり、「賞賛」したり「否定」したりする、教師のいわゆる「指導」というものが必要である…。」こうなると、勢い時間が多くかかることになるが、児童の反応に応じた適切な「返し」が入るならば、教育効果は間違いなく高まるだろう。
- 2) 本授業にける時間については、原実践のままとした。正確に言えば、「触らない」こととした。当然、45分間で終わるようにしたいわけであるが、原実践の特質を考慮

するならば、その範囲では収まらないものと推察する。可能であれば、45分間の2時間扱いとし、音読を楽しむ過程を大切にするとよいと考える。

〔参考文献〕

西川満智子. 1986. 野口芳宏氏の「うとてとこ」を追試して1・一年生から六年生まで追試できる. 現代教育科学357号, pp. 20-25.

西尾 一. 1986. 野口芳宏氏の「うとてとこ」を追試して2・「追試」の失敗例からも学べ. 現代教育科学357号, pp. 26-31.

野口芳宏. 1986. 追試実践を読んでの感想. 現代教育科学357号, pp. 32-33.

岡 利道. 2020. 追試をするということの価値（Ⅰ）—国語科「うとてとこ」（詩）の授業に即して—. 文教國文學第64号, pp. (1)-(14).

（本学教授）